

神様を見ました！

あなたのご支援が ケニアの人々の命を救います



感染症拡大に伴う食糧難によって
メトロが活動する世界中の子ども
の生命が脅かされています

カヤには2人の息子がいて、2人ともメトロの日曜学校プログラムに参加しています。彼女には夫がいましたが、ある日家族を捨てて家を出て行ってしまったため、カヤは家賃も払えなくなり、やがて一家は食べるにも困るようになりました。それでも、新型コロナウイルス感染症の影響で学校が閉鎖されるまでは、メトロのスポンサー制度のお陰で給食があったので、子どもたちだけは毎日食事をする事ができて感謝していました。

メトロが活動するアフリカのケニアでは、コロナウイルスの流行以前から極貧状態にある家庭が多かったのですが、今はさらに、多くの人々が長引く食糧不足に苦しみ飢餓状態に陥っています。そんな中で、ある女性が絶望の末に錯乱状態に陥って「子どもが餓死するのを見たくない」と、4人の子どもたち全員を自らの手で殺したという悲劇も耳にしました。あまりの惨状に言葉もありません。

メトロ・ケニアでは、支援している子どもたちとその家族を守るために給食を重点にサポートを整えていましたので、カヤの子どもたちが安心して食事できていることはスタッフの喜びでもありました。

しかし学校が閉鎖されると、カヤは困窮していた当時に戻ったような気分になり、子どもたちをどうやって食べさせて行こうかと悩み出しました。途方に暮れ、絶望的になり、この若い母親はやがて「自殺するしかない」と思い詰めるようになりました。すると2人の息子たちが、メトロの日曜学校で学んだみことばをカヤに伝え始めたのです。「神様がいつも気にかけてくださるから大丈夫」と断言し、「何があっても神様はママの天のお父様なんだよ」と。この励ましの言葉がカヤの心に触れ、「こんな状況だからこそ神様に信頼する必要がある」とカヤは気がつきました。そして、もう、生活のことをあれこれ思い悩むのをやめることにしました。

[次のページへ](#)

アメリカ&フィリピン クリスマス！

オペレーション・ホリデー・ホープ！

締切：アメリカ11/27 フィリピン11/10

オペレーション・ホリデー・ホープ 11/25

詳細は同封のチラシをご確認ください。

今月号の目次

P2…世界規模の飢餓／目標数4000人

P3…ビル師からのメッセージ／フィリピンに届くあなたの思いやり

P4…メトロスタッフからのレポート

P5…インターンシップを終えて

P6…日本事務所からのお知らせ



神様を見ました！

数日後のことです。カヤのお兄さんが突然やってきたかと思うと、なんとその月の家賃を支払っていったのです。カヤは思いました、「奇跡だわ」と。「神様が私への大きな愛を見せてくださった！」と。

続いて神様は、メトロの支援者や世界中のスポンサーの惜しめない協力を通じて、空腹に苦しむ人々への思いやりを示されました…

カヤの家に、メトロのスタッフがやってきたのです。家族向けの大きな食料箱を持って。中には、コーンミール、小麦粉、レンズ豆などの主食もたくさん入っていて、数週間は十分に食べられる量がありました。カヤは泣き出し、喜びのあまり涙が止まりませんでした。その時カヤは、神様が確かに目の前に現れて「いつも気にかけている」と証明してくださったのだとわかりました…息子たちが教えてくれたように！涙とともに喜びに輝く笑みを浮かべて、カヤはメトロのスタッフに言いました。「私、神様を見ました！」

スタッフはカヤの家族と共に祈り、「神様を信じ続けましょう」と励ましました。カヤの家を後にしたスタッフの耳には、彼女の家からカヤと息子たちが主を喜び賛美する声がずっと聞こえていました。

カヤのように、イエス様の慈しみと愛を知る必要のある人たちのために、メトロがイエス様の手足となって手を差し伸べる活動ができているのは、あなたのお陰です。感謝します！あなたのご協力により、ケニアやフィリピンの国際チームは、命をつなぐ食料品を必要な家庭に直接、迅速に届けることができています！

新型コロナウイルスと世界規模の飢餓

今回のウイルス感染症の流行とそれに伴う都市封鎖の影響で、世界中に食糧危機が迫っています。メトロが活動を展開するすべての地域において、私たちはこの危機を経験しています。ニューヨークでは4月から、食事に困っている住民たちに65万個の食料品ボックスを配りました。ケニアでも、極めて困窮している人々を助けるために、メトロのスタッフがコーンミールやその他の主食が入ったパッケージを支給しています。また、緊急事態にもできる限り対応しています。どうかこの困難な時に、あなたからの惜しめない支援で空腹の子どもたちに食事をさせると共に、イエス様の希望を与え続けることができるようご協力ください。感謝します！

食料品サポート

アメリカ、フィリピン、ケニアへの食料品サポートを随時受付中です
どなたでもお申し込みいただけます。

QRコードからお申込み
できます！ →



目標数 4000人

子どもたちを支えてくれて
ありがとうございます

新型コロナウイルスの影響を受けて、世界中の多くの人々が飢えに直面する状況で少しでも子どもたちに命をつなぐ食事を提供するために、メトロでは、2020年12月末までに、世界中で新規スポンサーが4,000人とえられることを目標に掲げました。(7月号メトロレポート掲載)

2020年1月より、日本事務所での目標を400人にして、ホームページから初回クレジット払いでスポンサー申し込みいただけるようにしました。

以下は、2020年7月1日から9月30日現在までの、日本からのスポンサーがついた数です。



スポンサー
申込フォーム

スポンサー数 **27人**
(含 既存スポンサー、複数支援者)

子どもの数 **30人**



厳しい状況の中にありながらもメトロの子どもたちを支えてくださるスポンサーの皆さまに感謝申し上げます。



「主導権は誰にあるのか」



今年は世界中の誰もが厳しさを体験する年となっています。ここニューヨークでも、感染症の拡大、都市封鎖、抗議行動、暴動、銃撃事件の増加などによって、多くの人々の生活がさらなる混乱に陥っています。こんな時、犠牲になるのは常に子どもたちです。現在の社会の状況は子どもたちのせいではないのに、皆、この世の中で生きていくしかないのです。そんな子どもたちを導く愛の光を一人一人のうちに輝かせるのは私たち大人の務めです。

先月のある日、私はメロ本部の近くの公園で子どもたちを集めて字の読み方を教えました。スタッフもやってきて一緒にゲームをしたりフォニックス*1のカードを見せたりして、公園は多くの笑い声に包まれました(もちろんマスクをしたままです!)。その場にいた子どもたちの多くにとって、そんなふうに誰かが自分たちのために楽しく勉強する時間を作ってくれるのは初めての経験だったので、その日は皆、特別な気分を味わっていました。続いて私は、失くした大事な指輪を探す王様の物語を読み聞かせた後、王の王なるお方が子どもたちの人生に入ってくさるよう、皆を救いの祈りに導きました。

特別なことではないかもしれませんが、しかし、皆と一緒に過ごした公園でのひとときは、キリストの愛が私たちを現実世界の混乱から解放して主の臨在の空間に導いてくださった時間のように思われました。それこそ、今の私たちにとって何よりも必要なことではないでしょうか。

A.W.トーマー師は言いました。「収拾不能な事態としか思えなくても、その背後には主権を明け渡すことのない神がおられる」。この真実を忘れないことです。ニュース番組を見るのをやめて、SNSへのアクセスをやめて、聖書を開きましょう、賛美の歌を歌いましょう。主の臨在に包まれて平安で満たされましょう。主のみ約束に信頼してください。「わたしは決してあなたを離れない」のです…今も、これからも、決して。

ビル・ウィルソン

*1) 英語の綴りと発音学習のための教育方法

フィリピンに届くあなたの思いやり

悲惨な状況下でも 忘れ去られることなく

フィリピン政府はマニラで厳しい都市封鎖の措置をとり、それに伴って、私たちが支援している極貧地域の子どもたちやその家族はさらなる苦境に陥りました。メロでは、引き続き日曜学校を行うために政府のガイドラインに沿った形で慎重にプログラムを変更しましたが、様々な制約にもかかわらず神様は祈りに応えてくださいました!

この疫病の大流行の真っ只中でも、メロのスポンサーの方々が支援を続けてくださるお陰で、私たちスタッフは命を救い、精神の質を高め、神様の愛を具体的な形で示すことができます。限られた移動手段やルートの中でも、スポンサーからの食料品などを子どもたちと家族に届ける方法を確立できたので、子どもの親たちはとても感謝しています。ある母親の言葉です。「神様がいかに偉大か、神様のみ手がいかに素晴らしいか、しみじみわかりました。」この母親をはじめ、多くの家族に安心を与えてくださってありがとうございます。彼らの多くはゴミ捨て場や墓地に住んでいるのです。そのような人たちが、神様から愛されている事実を決して忘れないのもあなたのお陰です。ありがとうございます!

ですから、私たちはキリストを通して、賛美のいけにえ、すなわち御名をたたえるくちびるの果実を、神に絶えずささげようではありませんか。善を行なうことと、持ち物を人に分けることを怠ってははいけません。神はこのようないけにえを喜ばれるからです。

ヘブル人への手紙13章15-16節



ニューヨークのメトロスタッフからのレポート

こんにちは、ティナです。

今年の春と夏は、予定していたことは何もできませんでした。正直なところ、ニューヨークのロックダウンは、なまやさしいものではありませんでしたが、感染が減速時期にあることに感謝しています。メトロの対応でよかったと思うことの1つは、この様々な状況の変化の中にあっても、常に奉仕する方法を見つけ、非常に多くの方法を用いて、この街にそれらを届けていることです。



660,416

食料品箱の配給数

410,270

食料品箱によって
飢餓を免れた人数

1,716,963.42

配給した食料の数量(ポンド)
約 778トン 800キロ

私たちの配給する食料品の箱や、電話やオンラインを通じた人々との関わりによって、身体的な必要に答えるだけでなく、神が人々の心にどのように働かれ、その家族に救いをもたらされるかを見て、私はとても感動しました。

それは、神が人々を救いに導く神であり、神の働きを誰も止めることはできないということをよく表しています。私たちが4月に食糧配給を始めたのを見て、ウィルソンさんという、ひとりの父親が、食料を受け取りに毎週来るようになりました。彼はメトロのことを聞いたことがなく、私たちがなぜそんなことをしているのか、興味を持っていました。私はその週の終わりに、彼に福音を伝えることになりました。私が各家族に食糧の箱を渡している間、彼はずっと私の側に立って、イエス様についてあれこれと質問をしてきました。

私が再び救いについて彼に話したとき、「私の妻も、この話を聞く必要がある」と、彼は言ったのです。そして、私は初めて彼の中国人の奥さんに、電話で福音を伝えることができました。数週間後、ウィルソンさんは、イエス様を受け入れました。これは、神が人々に働かれたときの一例に過ぎません。各家庭に食糧の箱を持って行ったときには、何度もその家族と一緒に祈るチャンスが与えられました。



教会学校は、オンラインのインスタグラムや、ユーチューブ、ティックトックを用いて、今でも毎週続けられています。

特に印象に残っていることの1つは、オンラインサマーキャンプでした。3日間、オンラインで私たちと一緒に子どもたちは聖書研究や、礼拝、図画工作、祈りを行い、画面を通して彼らが神と出会うのを観られたのは、とても貴重な体験でした。

Run-With-One メトロのスタッフ支援

メトロ・ワールド・チャイルドでは、世界中からクリスチャンが集まり、基本的に無償で働き、生活を支える支援者を個別に募っています。彼らは、子どもたちを救うことに情熱を持ち、精一杯の働きをしていますが、その働きを継続することは、体力的にも、経済的にも非常に困難です。

Run-With-One(ラン・ウィズ・ワン)は、そのスタッフを支援することによって、結果的に子どもたちを助けるというご支援方法です。

ご支援方法

月々5,000円以上のご希望の金額でご支援を始めていただけます。
スタッフの同労者となり、手紙やメールでのやり取りなどを通して、スタッフを助けることができます。



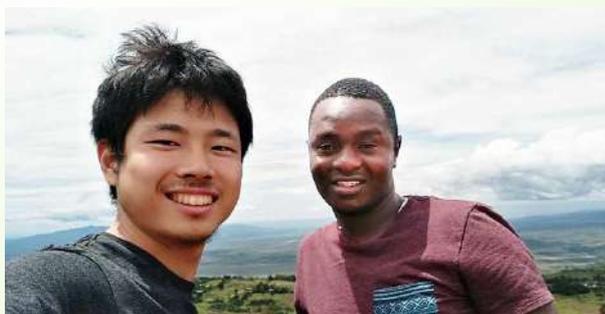
詳細&お申込みは
こちらから

METRO Kenya を訪れて

前月号に続き、日置様がメトロの働きに参加されたレポートをお届けします。今月より、ケニア編です。

僕は2019年8月末から12月まで、メトロ・ワールド・チャイルド・フィリピンでインターンシップをしていました。そして、インターンシップが終わった後も、旅を続けていました。

フィリピンを経た後、タイのバンコクで1週間休憩して、インドに旅立ちました。インドでは、メトロの教会学校とは関係なく、1か月間一人旅をしていました。そして、この旅の最終目的地であるアフリカ大陸へと出発しました。



空港から宿舎まで送ってくれたタクシードライバーと

旅を始めるときは、ケニアでメトロの働きに参加できるなんて夢にも思っていなかったのですが、不思議と神様が導いてくださいました。

アフリカにはずっと来たかったので、ワクワクしていた一方、ケニアのナイロビという場所は本当に危険なので、ずっとビクビクしていました。でも、ケニアのスタッフの方々が良くしてくれたので、無事にナイロビから170キロ以上離れた、ナクルという都市にあるメトロ・ワールド・チャイルド・ケニアの事務所兼宿舎に到着しました。

ケニアのスタッフの様子は、フィリピンとはまた異なる雰囲気でしたが、みんな信仰に熱くされていて、奉仕に熱心でした。

ケニアには3週間滞在していました。僕は、ビジター兼ボランティアという形で、少しお手伝いをしながらメトロの働きに参加していました。

ケニアではフィリピンとは異なり、小学校に出向いて授業の合間や朝礼の時間に教会学校を行っていました。フィリピンとはやり方の違う部分もいくつかあって少し戸惑うところはありましたが、とても祝福された良い時でした。

ケニア人(のちに旅をしたタンザニアでも)は、ダンスが大



ケニアのスタッフと

好きで、何かにつけてダンスをします。音楽をかけると、歌より先に体が動いていて、日本人としては考えられない不思議な光景でした(笑)。

また、民族性も異なっていてとってもフレンドリーです。大きな声で話すし、笑うし、とても楽しい人たちです。スタッフも来てから間もない僕を温かくもてなしてくれました。



小学校で、メトロが教会学校の授業をする様子



生徒たちと一緒に。日本人(白人またはアジア人)がいてカメラを向けると、大体こうなります(笑)

しかし、楽しい一面だけでなく問題も多く抱えています。ケニアのメトロは、もともとメトロが始めたものではありませんでした。

日置様のレポートは、次号に続きます。ケニアの直面する環境や、ケニアメトロのスタッフについて、お伝えします。お楽しみに。

日本事務所からの重要なお知らせとお願い

アメリカ・フィリピンの クリスマスプレゼント！

ご自分のサポートしているアメリカ、またはフィリピンの子どもへのクリスマスプレゼントを募集します。詳細を同封のチラシをご覧ください。締切日がそれぞれ違いますので、ご注意ください。

アメリカの子どもへのプレゼントは、ご自分で用意した品物を直接現地に送ることもできます。ですが、現在コロナウイルスの影響により、アメリカ宛に郵送できない場合がございます。郵便局であらかじめご確認ください。

フィリピンの子どもへのプレゼントは、直接現地に送ることはできません。

オペレーション・ ホリデー・ホープ募集！

オペレーション・ホリデー・ホープ (OHH) は、世界中でメトロが開催するクリスマスの教会学校に参加した子ども全員にプレゼントを渡す働きです。今年は、25回目の開催です。

1口1,500円で、おひとり何口でもお申し込みいただけます。同封のチラシをご覧ください。日本事務所までお知らせください。

OHHのプレゼントは、「どんなに辛い境遇にあっても、世界のどこかに自分を心配して祈っている人がいる」という事実を子どもたちが思い出せる、愛の象徴です。



メールアドレスのご登録を！

メトロ・ワールド・チャイルド・ジャパンでは、今後メール配信の活用を考えています。

先日、ケニアのキャンプ開催決定の救急告知をお送りしましたが、届きましたでしょうか？

届かなかった方は、以下の理由が考えられます。ご確認の上ご連絡または設定をお願いします。

- お申込の時に、メールアドレス記入をされなかった
- 携帯やプロバイダーを換えてアドレスが変わった
- 携帯の自動拒否設定に入れている
- PCや携帯の迷惑メールフォルダに入っている

メールアドレス登録方法

「メール登録【お名前】」という件名で、以下のメールアドレス宛に、空メールを送信ください。

metrojapan@mission.or.jp



日本事務所よりごあいさつ！

10月になり、秋らしい爽やかな日々が続いています。政府も、経済の立て直しに大幅支援を開始しています。今年の終わりに向けて、私たちも生活を立て直しましょう。

私たちは力不足を感じても、主にはすべてのことが可能であり、求める者に、愛と御力を現してくださいませ。コロナウイルスを恐れるのではなく、主が共におられるのですから、信仰を持って前向きに一步步、確実に前進して、すべての圧迫やストレスから解放していただきましょう。

大変な状況に陥りながらもご支援を続けてくださっていることを心から感謝しています。主があなたの具体的な必要も満たしてくださることを信じています。

皆様の心と健康が守られ、主の御業を体験し、主からの格別な恵みと祝福が豊かにありますことを信じてお祈りいたします。

日本事務所代表 万代栄嗣(まんたい えいじ)



メトロ・ワールド・チャイルド日本事務所

所在地 〒104-0061
東京都中央区銀座 4-5-1
教文館 6階 TFC内

電話 03-3561-0174

FAX 089-925-1501

メール metrojapan@mission.or.jp

URL <https://metroworldchild.jp/>



すべてのお振り込みは、下記宛にお願いいたします。

ゆうちょ銀行：一六九店 当座預金 0041610

郵便局：記号番号 01650-3-41610

口座名義はどちらも同じ

メトロ・ワールド・チャイルド・ジャパン